



ビジネスコミュニケーション学部 ビジネスコミュニケーション学科

特任教授 南保 勝 NAMBO Masaru

専門・活動分野 地域経済学、地場産業論、地域研究

最新の研究内容

テーマ：北陸新幹線敦賀延伸と地域経済 -地域づくりにおける北陸新幹線の有効性を考える-

研究/活動紹介

① 2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻により、世界の経済環境が大きく変わりました。新冷戦の始まりとブロック経済化の進展は、物価高など経済に悪影響を与え、私たちの生活にも負の影響をもたらしました。こうしたマクロ経済の動きに対し、地域というミクロな部分では、まだまだ多くの可能性を秘めています。地域の歴史、文化、産業、暮らしなどを改めて見直しますと、多様な側面で福井だけが保有する固有の価値が存在するのです。そこで、私は経済学という学問を通して、その価値をみつけ磨き経済性を持たせながら、福井の魅力を高めていきたいと考えています。

② 2024年の研究テーマ「北陸新幹線敦賀延伸と地域経済 -地域づくりにおける北陸新幹線の有効性を考える-」(仁愛大学研究紀要 人間学部篇(第23号)2024年)は、①で提示した研究の背景、目的等に沿って、福井地域の可能性を導き出すために実施した研究です。その結果を要約しますと、開業当初は北陸新幹線敦賀延伸が一定の経済効果を発現したものの、それに対する地元の期待は思うほど大きくなかったこと。それ故、地域経済の発展のために地域づくり面で北陸新幹線の有効性を地元住民に理解してもらうことが重要であること。それには、地元住民が納得できる観光業の振興戦略を検討する以外に、ここで紹介した京都が歴史・文化都市へと転身するうえで公共交通機関が果たした役割を再確認し、地域づくりの中での北陸新幹線の存在価値を認識することが肝要であることなど。つまり、北陸新幹線並びにそれを含む高速体系の存在は、あくまで地域の基盤を整備、維持するうえでの一つの要素に過ぎないことを理解し、北陸新幹線を巻き込んだ新たな振興戦略を打つことの重要性が問われていることが伺われました。

上記研究は、北陸新幹線敦賀開業による一つの可能性研究にすぎませんが、①で述べた地域の歴史、文化、産業、暮らしなど多様な地域資源に着目すれば、それらを再確認し新たな価値を付加することで多様な側面から地域発展の可能性が見出せるものと確信しております。

<北陸新幹線・金沢―敦賀2024年3月16日に開業>



資料：旅行新聞

<仁愛大学新学部記念シンポジウムでのパネルディスカッション風景>



産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項

- ・主な研究テーマには、「歴史経路でみた地域経済の現状と将来に関する研究」「地域経済を支える地場産業や企業の特徴と今後の在り方に関する研究」「エリアマネジメント(地域づくり)を考える」などがあります。
- ・そのため、地域におきましても、(株)福井銀行やフクビ化学工業の社外取締役を務めさせていただいたほか、国や福井県、自治体などの外部講師、審議会・協議会などにも多数参加し、地域の経済活性化に向け取り組んでいます。
- ・相談対応可能な事項といたしましては、地域の経済、産業、まちづくり等、地域活性化に関する多様な事項について対応が可能です。

学会・経歴

- ・福井県立大学大学院 経済・経営学研究科修士課程修了。博士(経済学)、日本地域経済学会他。
- ・主な著書『地域再生の未来像』単著、『地域経営分析』単著、『福井地域学』単著など多数。
- ・国、県、基礎自治体などの外部講師、審議会・協議会委員など多数。福井県立大学名誉教授、福井大学客員教授。

<お問合せ窓口>

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp